



夏休みのエピソード

長い夏休みが終わり、いよいよ学校が始まりました。

この夏も、デイでは毎日プールを中心に活動をしてきました。活動中の出来事をいくつか紹介したいと思います。

▼トマトの収穫

「何か食べられる物を育てたい」という想いから、花壇の隅で育て始めたプチトマト。8月に入ると、どんどん成長し、真っ赤な実がたくさん生りました。



写真のA君はトマトが大好き。この日は彼の誕生日会だったので、トマトでお祝いしました。

▼音楽教室

80年代の歌謡曲やアニメソングが大好きなT君。音楽教室の参加は4年ぶりでしたが、とても人見知りの激しい彼が、自発的に「先生、〇〇の曲を弾いて下さい」とリクエスト。

さすがはプロの先生。彼の突然のマニアックなリクエストにもすぐに応じて頂き、B君ご満悦。こんな機会が彼にとって、人と関わる自信につながると良いなと思います。



▼ウォータースライダー

お盆を過ぎる頃、プールに設置された手作りのウォータースライダー(滑り台)。去年まで階段の昇降も怖がっていたC君でしたが、今年



は意を決してスライダーに挑戦! はじめは怖がっていましたが、すぐに慣れ、楽しんで何度も滑っていました。

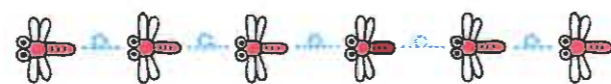
ヘルパーだより No. 6

H18年に脳梗塞で倒れ、左麻痺になられたAさんは、ご自身の前向きな姿勢により、リハビリに励まれ、今では介護認定が要介護3から要支援2になり、ヘルパーが訪問しながらも、できる限りの家事をこなす素敵な女性です。

ヘルパーが週に3回訪問して、調理の見守り、掃除機かけ、買い物等の外出支援を行っています。お話が大好きなAさんは、ご自身のこと、ご家族のことなど、様々な話をしてくださり本当にご家族思いで家庭を大切にされてきた方だということが伝わってきます。

また、麻痺の体で家事の工夫をいろいろとされています。例えば、調理の野菜の皮むきでは、ジャガイモは先にゆでて、皮を片手でむけるようにしてから調理します。大根は太めに輪切りにしたものを縦に半分に切り、半円状で転がらないようにしてまな板にのせ、右手だけで包丁を使って上手に皮をむいていきます。ヘルパーがその様子に驚いていると「私はね、逆境に強いよ」とにっこり笑っておっしゃいます。

Aさんは以前、まごころのヘルパーをされていました。懐かしそうに昔のまごころの様子を教えてください、新人ヘルパーが何うと「あなたならできるわ、がんばって!」と逆に励まされます。自身が左麻痺になって解った利用者さんの「思い」を先輩ヘルパーとして教えて下さることもあり学ぶことがとても多いです。



利用者さんからのことば・・・

台所に立つのも出来ない状態で皆さんに手伝って頂きながら「料理だけは自分でやる」と決心しましたので、頑張れば何とか現実になりました。大勢のヘルパーさんにお世話になり、感謝しています。

心づれづれ



おばあちゃん

私は、お年寄りが大好きです。その理由の大きな一つは祖母の存在です。

私の記憶に残っているのは 母方の祖母です。私が初孫だったこともあり、とても可愛がってくれました。

毎年夏休みには田舎の祖母の家に泊まりに行きました。山の神社で蝉取り、溪流で水遊び、夕立雷、蚊帳で昼寝、盆踊りに花火。祖母はまだみんなが起きる前に、古い家中のすべてに雑巾がけをし、黒光りする柱時計のネジをまき、裏庭の鶏の生みたてたまごをとってきて朝ご飯の準備。私は『強力わかもと』と『下呂膏』とタバコのおいにする祖母の膝の上で、しわしわの皮膚を触っているのが大好きでした。

そんな祖母が認知症になりました。(20年前は痴呆でしたね) もう誰の顔かも分からなくなり、とうとう寝付いて、床ずれができました。親戚一同集まっても、痛がる祖母のおむつひとつ交換するのに、オロオロして大騒ぎ。そんな時、田舎の訪問看護さんがニコニコ祖母に話しかけながら、とても簡単に床ずれの処置、おむつ交換 着替えをして行かれました。まるで爽やかな風が吹き抜けて行ったようでした。

介護を知りたい、認知症を知りたい。祖母にはしてあげられなかったけど、大切な大先輩の人生の物語の最終章を、少しでも何かのお手伝いがしたいから…祖母の愛に支えられて、今この仕事に携わっています。

協力会員(ケアマネ) 武保直美



ミニデイだより

小物作り



8月は、牛乳パックと布の端切れや捨てるには惜しいきれいな包装紙を利用して、『踏み台(椅子)』や『小物立て』を作りました。

切って、組み合わせて、貼ったりしながら、牛乳パックが利用者さんの手によって、使える小物として生き返っていきます。

いつもオリジナリティーあふれる工夫で、見本の作品よりもずっと素敵に完成されるIさん。Nさんはご自宅からお気に入りの布を持参され、「この色にはこちらの色の組み合わせの方が合うかしら?」と目を輝かされます。しばらく体調を崩されてお休みされていたKさんは「今日、来て良かったわ。この椅子でお坊さんがいらした時に、お参りするの。」と喜んで持って帰られました。



「団子が茹で上がるまで、あと少しよ。」ボランティア体験の学生さんと、利用者さんのにこやかなふれあいがありました。

